

天王海岸の鳥類相について

佐藤武視*

はじめに

秋田湾地区開発基本計画の構想が公表されたのに伴い、秋田県では、環境影響評価の一環として、1978年に自然環境調査（植物相・開発予定地域生物環境調査・海岸地域生物環境調査）結果を報告書にまとめた。

筆者も鳥類調査部門で係わり、その当時から海岸線を中心にした鳥類の飛来状況に関心をもち、観察を続けてきた。

近年、天王海岸においては海蝕防止策として防潮堤の建設が進み、自然状態の砂浜や浜堤草地の減少が目立ってきている。そこで、この地域における現段階での鳥類相を把握しておくべく1984年の1年間を通じ、26回、2340分の調査を行ったので、その結果をまとめて報告する。

調査地の概要

男鹿半島の南東端部から秋田市南部にかけての海岸は、県内で最も面積の広い砂丘地になっている。

その一画に天王海岸がある。船越水道の南防波堤から南へ5.4km区間を調査地とした。（図1）

網干場以北においては汀線から内陸部へ草地・湿地と続き、植生は、草地では、ハマニンニク・コウボウシバを主とし、湿地では、ススキ・ヨシ群落の背の高いイネ科植物が占めている。荒地もあるが、ここは地元漁師が魚網干し場に利用している。

江川から網干場と浜へ抜ける作業用道路があり、この道路添いに水田・湿地・砂防用樹種試験地・ヨシ群落などが点在している。

網干場から南の海岸は一樣に汀線から砂浜・草地・クロマツの砂防林の状態で出戸浜方向へと続いている。

一方、海上では、1967年から、はじめた食用のりの

養殖網が汀線から沖あい50mの幅で船越水道防波堤から南へ海岸線に添って約8kmの長さで敷設されている。

また、のり養殖場の高波による砂の移動を抑制するために消波ブロックが積み上げられた箇所もある。

調査方法

1984年1月から3月までと11月・12月は各月の中旬を目処に1回、4月から10月までは各月上・中・下旬に1回ずつの調査をした。毎回の調査時間は90分と定め、水田から砂防用樹種植栽試験地のある浜入口までの各調査区域は区画センサス法をとり、砂浜ではセンサス幅を片側50mの線センサス法で各回共、この調査法を用いた。なお汀線から草地・砂防林々縁部の調査は自家用車で、のり養殖業者の作業車の轍を走行した。

8月上・中旬の2回は午前6時の調査開始としたが、他はおおむね午後1時以降になり、すべて筆者1名で行った。識別には8倍双眼鏡と25~50倍接眼レンズ付き望遠鏡を使用した。上空を通過したものでも肉眼で識別可能なものは記録の中に入れてある。また、草地とクロマツの砂防林で声だけで確認できたものも含んでいる。

調査結果

ここに掲げたのは1984年1月から12月までに観察した鳥類である。文中の()は観察した月日で左が月、右の数字は日を表す。年号は省略した。

ここに収録したのは29科82種であり、末尾に野生化した飼鳥1種も示した。なお、和名・学名とその配列は日本鳥学会（1974）に準じた。

* 秋田県立博物館

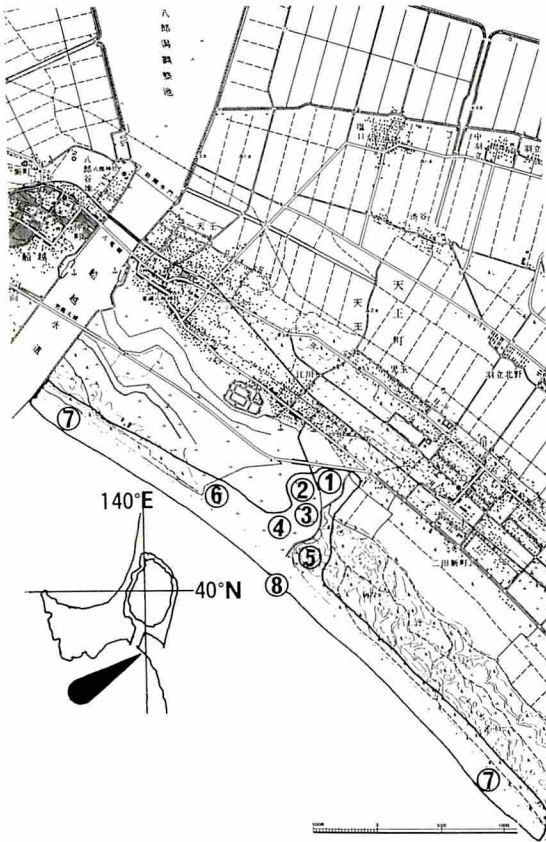


図1 調査地

※実線内が調査地

- | | |
|-----------|-------------|
| ①水田および休耕田 | ⑤砂防用樹種植栽試験地 |
| ②湿 地 | ⑥草 地 |
| ③旧ごみ捨場 | ⑦砂 浜 |
| ④魚 網 干 場 | ⑧のり養殖場 |

国土地理院発行 2万5千分の1地形図「船越」を使用



砂防用樹種植栽試験地



草地および砂防林々縁部



魚網干場(荒地)



船越水道から南側の砂浜

鳥類目録

ウ科 PHALACROCORACIDAE

- 1 ウミウ *Phalacrocorax filamentosus*
沖合では周年目撃するが、のり養殖場近くでは、3月の5羽を最高に2・10・12月に各1羽ずつ観察した。
- 2 ヒメウ *Phalacrocorax pelagicus*
船越水道南防波堤海上で1羽観察 (IX・16)。

サギ科 ARDEIDAE

- 3 ダイサギ *Egretta alba*
作業道路端の水田で1羽観察 (IV・13)。毎年観察されるが、数は少ない。
- 4 コサギ *Egretta garzetta*
ダイサギと共にいた1羽 (IV・13)。江川船越バイパス西側湿地でも10羽前後の群を観察することがある。
- 5 アオサギ *Ardea cinerea*
2～4羽で数は少ないが汀線で観察された。

ガンカモ科 ANATIDAE

- 6 カルガモ *Anas poecilorhyncha*
渚では観察期間中、1群36羽の飛来があった (IV・30)。ヨシ原では親鳥と共にひな4羽を目撃 (VI・28)。
- 7 コガモ *Anas crecca*
旧ごみ捨場の沼地で約20羽 (IV・21)。
- 8 スズガモ *Aythya marila*
汀線から30m 沖の消波ブロックの外側の海上に約120羽 (V・13)。特に北帰の遅い例とみられる。
- 9 クロガモ *Melanitta nigra*
典型的な冬鳥として渡来し、海上が荒れている時に海岸近くに寄る。
- 10 シノリガモ *Histrionicus histrionicus*
船越水道南防波堤より1.2km 南の浜辺にエクリプスタイプの1羽初認 (IX・7)。¹⁾82・10・15にも同じ場所でも1羽確認している。冬鳥の到来としては、きわめて早い記録である。
- 11 ウミアイサ *Mergus serrator*
のり養殖の網の間で採餌する♂1・♀1 (V・26)。北帰の遅れたものとみられる。

ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

- 12 ミサゴ *pandion haliaetus*
砂浜の流木に止ったり、のり養殖場の上空へ舞い上る動作で餌を探がす1羽 (IX・7)。
- 13 トビ *Milvus migrans*
1981年頃、ごみ捨場が稼働していた時は、いつも砂防林と砂浜まで100羽近く観察されたが、閉鎖後の現在は30羽前後に減った。打ち上げられた有機物を漁っている。

ハヤブサ科 FALCONIDAE

- 14 ハヤブサ *Falco peregrinus*
日没近く、砂防用樹種植栽試験地にスズメ・シジュウカラを追っていた。

キジ科 PHASIANIDAE

- 15 キジ *Phasianus colchicus*
砂防林では周年観察される。3羽のひなが草地で砂浴していた (VIII・22)。トビに砂浜へ追い出された♂成鳥1羽もいた (X・8)。

チドリ科 CHARADRIIDAE

- 16 コチドリ *Charadrius dubius*
波打ちぎわよりも草地に近い方で多く観察される。単独行動が主である。
- 17 シロチドリ *Charadrius alexandrinus*
砂浜に打ち上げられたごみのところで採餌することが多い。風の強い日は、轍に入って風を避けていることがある。
- 18 メダイチドリ *Charadrius mongolus*
秋の渡去期に多く観察され、夏羽の1羽 (IX・7)。他の個体は中間羽であった。
- 19 ムナグロ *Pluvialis dominica*
夏羽の1羽は休耕田 (IV・21) で、中間羽の個体は網干場の草地で1羽 (IX・7)。
- 20 ダイゼン *Pluvialis squatarola*
4～6羽の群で移動する。羽色は夏羽・冬羽の個体差が著しい鳥種である。採餌行動も渚から草地まで行動範囲が広い。
- 21 ケリ *Microsarcops cinereus*
当地では、漂鳥とみられるが、残雪に覆われた網

- 干場と砂浜の間を2羽でペアリング行動をしているのが観察された(Ⅲ・15)。
- シギ科 SCOLOPACIDAE
- 22 キョウジョシギ *Arenaria interpres*
8月上旬に飛来するものでは夏羽の個体もいるが、大半は中間羽である。打ち上げられたり、消波ブロックに固着するムラサキイガイを好んで啄食する。
- 23 トウネン *Calidris ruficollis*
毎年、春秋には観察されるが、秋の方が多い。1群150羽(Ⅷ・30)が最高であった。8月下旬以降、観察されるものは冬羽になっていた。
- 24 ヒバリシギ *Calidris minutilla*
休耕田に飛来した1羽のみである(Ⅸ・16)。浜辺には出現しない。当地では、きわめて稀な旅鳥である。
- 25 ウズラシギ *Calidris acuminata*
調査地南端に小川があり、そこは多くのシギ・チドリ類の水浴場になる。トウネンの群に混った1羽が水浴びをしていた(Ⅸ・16)。^{'82・10・15}にも観察しているが、当地では珍らしい種類である。
- 26 ハマシギ *Calidris alpina*
秋の観察例が多い。シギ類では最もおそく南下する種類である。県内での越冬例もあるようだが、当地では、その徴候はみえない。
- 27 オバシギ *Calidris tenuirostris*
波打ちぎわからふしよの潜る深い所まで入り採餌する。過去7年間の観察では、秋だけで、今後とも注意して観察する必要がある種類である。
- 28 ミユビシギ *Crocethia alba*
毎年、春秋の渡りの時期に10羽前後は観察される。しかし、今年は秋に2羽だけであった。
- 29 ヘラシギ *Eurynarhynchus pygmeus*
冬羽のトウネン17羽の中に1羽目撃(Ⅸ・7)。石川寿一、和佐和男からも目撃の報を受けた。昭和49年の公害課報告書にも記録されていることから、以前から少数ながら飛来していたようである。
- 30 エリマキシギ *Philomachus pugnax*
1973年9月、大潟村で冬羽の1羽発見が本県での初記録とされる。当地では筆者が観察した^{'82・10・1}の1羽が初めて今回(Ⅶ・22とⅨ・16)の各1羽で、稀な種類である。
- 31 キリアイ *Limicola falcinellus*
旧ごみ捨場隣りの湿地にトウネンと共に1羽(Ⅸ・16)。渡来数は、ごく少数である。
- 32 ツルシギ *Tringa erythropus*
春秋のルートが異なるのか、春だけ観察される。休耕田や湿地では7~10羽の群で行動する。渚・砂浜などでの観察例はなかった。
- 33 タカブシギ *Tringa glareola*
湿地のヨシの株間で採餌する1羽(Ⅸ・16)。開けた明るい場所には現われなかった。
- 34 キアシシギ *Tringa brevipes*
春秋とも汀線や消波ブロック上で観察される。20羽前後の群で移動したり、ダイゼンと混群で観察されることもある。
- 35 イソシギ *Tringa hypoleucos*
汀線から草地まで活発に動き採餌する。繁殖の有無は未確認である。
- 36 ソリハシシギ *Xenus cinereus*
キアシシギやキョウジョシギと行動を共にすることがあった。渡来数は多くない。
- 37 オグロンギ *Limosa limosa*
休耕田と湿地を往復する。湿地へは日没近くなると飛来した(Ⅳ・13)。
- 38 オオソリハシシギ *Limosa lapponica*
単独行動が多い。しかし、^{'82・10・15}には6羽1群がキョウジョシギとの混群で観察している。
- 39 ホウロクシギ *Numenius madagascariensis*
当地に飛来したシギ・チドリ中、最大のシギである。消波ブロックのそばで、小ガニ類を盛んに啄食する2羽を目撃(Ⅷ・30)。渡来数は、ごく少ない種類である。
- 40 チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*
砂浜の打ち上げられたごみの多い場所で採餌する。危険を感じるとのり養殖網の支柱に避難する光景がよく見られる。
- 41 タシギ *Gallinago gallinago*
水田の畦に佇む2羽(Ⅳ・21)。休耕田で2羽(Ⅳ・30)。

セイタカシギ科 RECURVIROSTRIDAE

- 42 セイタカシギ *Himantopus himantopus*
1972年、県内では大潟村で2羽観察されたのが初

記録である。当地ではハマシギ2羽と休耕田にいた1羽(Ⅳ・13)。初記録である。

ヒレアシシギ科 PHALAROPODIDAE

- 43 アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus*
飛来は5月に集中した。のり養殖場の網の間で1群150羽ほどが採餌しながら北上した(Ⅴ・13)。3回の調査で総数約380羽であった。

カモメ科 LARIDAE

- 44 ユリカモメ *Larus ridibundus*
春は4月に渡去・11月に飛来する。ウミネコと混群のことが多い。
- 45 セグロカモメ *Larus argentatus*
1979年頃は11月から翌春の4月頃まで200羽を越す群で汀線やのり網支柱上に常時観察された。しかし本調査では総数9羽であった。

- 46 オオセグロカモメ *Larus schistisagus*
ウミネコの群と共にいることが多い。本調査では総数30羽を確認した。なお、1978年頃は1～2月に男鹿半島全域の海岸で26,000羽を越す調査結果がある。

- 47 カモメ *Larus canus*
元来、この鳥は砂浜よりは岩礁の海岸で観察されることが多いが、当地でも岸近くの消波ブロック上や汀線で25羽程度観察された。

- 48 ウミネコ *Larus crassirostris*
本県では留鳥または漂鳥とみられるが、当地では四季を通じて観察される。マイワシが多量に打ち上げられたときは汀線だけで400羽を越した(Ⅶ・19)。

- 49 アジサシ *Sterna hirundo*
春は1羽(Ⅵ・21)のみであったが、秋はのり養殖網の支柱に60羽(Ⅸ・16)。

- 50 コアジサシ *Sterna albifrons*
砂浜にくることは少ないが、のり養殖網支柱に止ったり、その上空からダイビングして採餌する。

ハト科 COLUMBIDAE

- 51 キジバト *Streptopelia orientalis*
1～2羽の単位で波おだやかな好天の日に汀線にくる。

- 52 アオバト *Sphenurus sieboldii*
クロマツ砂防林から3羽が渚に下り、そのうちの1羽は海水を飲む動作をした(Ⅸ・7)。

ホトトギス科 CUCULIDAE

- 53 カッコウ *Cuculus canorus*
ヨシ原で営巣するオオヨシキリの上を往復していた(Ⅶ・19)。

フクロウ科 STRIGIDAE

- 54 フクロウ *Strix uralensis*
砂防林内でハシブトガラス3羽に追われて逃げる1羽を目撃(Ⅷ・10)。

ヨタカ科 CAPRIMULGIDAE

- 55 ヨタカ *Caprimulgus indicus*
砂浜に積まれたのり養殖網支柱置場に止る1羽(Ⅷ・30)。

アマツバメ科 APODIDAE

- 56 ハリオアマツバメ *Chaetura caudacuta*
16羽が網干場上空から船越水道方向へ約5分旋回後、内陸部へとび去った(Ⅴ・13)。

キツツキ科 PICIDAE

- 57 アカゲラ *Dendrocopos major*
砂防林内で風倒木になったクロマツの樹幹に啄食痕を残しながら採餌していた(Ⅲ・15)。

ヒバリ科 ALAUDIDAE

- 58 ヒバリ *Alauda arvensis*
草地や砂防用簀垣周辺に多い。網干場のスキの株元に1巣4羽のひなが生育中だった(Ⅵ・28)。晩秋には南下する漂鳥である。

ツバメ科 HIRUNDINIDAE

- 59 ショウドウツバメ *Riparia riparia*
7月中旬から草地上空をとび交い、集結のピーク時は80羽に達した(Ⅷ・22)。
- 60 ツバメ *Hirundo rustica*
夏鳥として普通の鳥であるが、8月上旬には日没

近く沼地のヨシ原をめぐらに50羽程度集結していた。

セキレイ科 MOTACILLIDAE

- 61 キセキレイ *Motacilla cinerea*
調査地南端にある淡水の細い流れで水浴する1羽
(IX・16)。当地での観察は珍しい。
- 62 ハクセキレイ *Motacilla alba*
草地と砂浜の境で毎回2羽をみかけた。
10月上旬には砂浜に17羽の群を数えた。
- 63 セグロセキレイ *Motacilla grandis*
調査地南端の樹高約3mのクロマツにカワラヒワ
1羽と止っていた(VI・28)。

ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

- 64 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*
砂防用樹種植栽試験地のアキグミに7羽飛来した
(X・8)。

モズ科 LANIIDAE

- 65 モズ *Lanius bucephalus*
網干場の古杭に止り、高鳴きをはじめた♂1羽
(X・26)。「早にえ」にされたケラも観察された。

ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

- 66 ジョウビタキ *Phoenicurus aureus*
渡りの途中とみられる♀1羽が流木に止っていた
(IV・30)。観察例は少ない。
- 67 ノビタキ *Saxicola torquata*
網干場のススキに止る冬羽の1羽(IX・16)。1980
年から毎年4月と9月に行う当地の探鳥会でも秋に
は観察しているので南下コースと考えられる。

- 68 イソヒヨドリ *Monticola solitarius*
岩浜でないため飛来数は少ないが、消波ブロック
を伝い採餌していた。

- 69 クロツグミ *Turdus cardis*
繁殖期、クロマツ砂防林ではソングポストでさえ
ざる♂をみることが多い。

- 70 ツグミ *Turdus naumanni*
水田や網干場で単独または2~3羽で行動する。

- 71 オオセッカ *Megalurus pryeri*
網干場東方に広がるヨシ原で♂のさえぎりを聞く

(VIII・22)。佐藤公生も声を確認した。

- 72 コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps*
繁殖期のヨシ原では、テリトリーをもつ♂3羽が
常にさえぎりを続け、営巣している。
- 73 オオヨシキリ *Acrocephalus arundinaceus*
6~7月のヨシ原は終日、♂のさえぎりと♂同志
の追い払い行動が続く。2巣確認したが、カッコウ
の産卵は確認できなかった。

シジュウカラ科 PARIDAE

- 74 シジュウカラ *Parus major*
砂防林では普通にみられる留鳥である。砂浜入口
の道端に放置された石油缶では育すう中の♂♀を観
察した(VI・8)。

ホオジロ科 EMBERIZIDAE

- 75 ホオジロ *Emberiza cioides*
草地を生息場所にしており、砂防用簀垣に止って
さえぎることもある。冬期間は観察されない。
- 76 カシラダカ *Emberiza rustica*
積雪のない砂防用樹種植栽試験地の地上で7羽が
採餌していた(XII・20)。

- 77 アオジ *Emberiza spodocephala*
船越水道南防波堤から砂浜へ入る左側が砂防林で
ある。林内のハマナスのブッシュに1羽観察(IX・16)。

アトリ科 FRINGILLIDAE

- 78 カワラヒラ *Carduelis sinica*
草地と砂防林内でみることが多い。3~4羽が砂
浜で採餌することもある。3羽の巣立ちびなが簀垣
に止っていた(VIII・10)。

ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

- 79 スズメ *Passer montanus*
砂浜以外どこでもみられる留鳥である。当地に台
風10号が接近していた午前6時、草地まで打ち上げ
られたごみの間で風を避けて30数羽が採餌していた
(VIII・22)。

ムクドリ科 STURNIDAE

- 80 ムクドリ *Sturnus cineraceus*

天王海岸の鳥類相について

作業道路端の水田が耕起された時に10~15羽の小群が観察された。海浜ではみられなかった。

カラス科 CORVIDAE

81 ハシボソガラス *Corvus corone*

旧ごみ捨場が稼働していた1981年頃は、ここをえさ場にして砂防林から渚まで、いつも200羽以上目撃した。カラスといえば本種が他を圧倒していたが現在は分散してしまい全調査期間の総数74羽であった。

82 ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos*

ハシボソガラスと共に周年みられる留鳥である。打ち上げられたものの中から餌になるものを利用して浜で観察される機会の最も高い鳥種である。

野生化した飼鳥

ドバト *Columba cibia sar*

4月2羽・8月1羽・9月9羽、いずれも砂浜に下り、渚で採餌し数分後、とび去った。

観察鳥類月別一覧表

種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	中	中	中	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	中	中
1 ウミウ		●	●							●		●
2 ヒメウ									●			
3 ダイサギ				●								
4 コサギ				●								
5 アオサギ				●					●			
6 カルガモ	●	●	●	●●●	●●●	●	●		●	●		●
7 コガモ				●								
8 スズガモ					●							
9 クロガモ	●	●	●									●
10 シノリガモ									●			
11 ウミアイサ					●							●
12 ミサゴ									●			
13 トビ	●	●	●	●	●●●	●●●	●●●	●	●	●●●	●	●
14 ハヤブサ									●	●		
15 キジ		●	●					●●		●		
16 コチドリ				●	●	●						
17 シロチドリ				●	●●●	●		●	●			
18 メダイチドリ								●●●	●●●	●		
19 ムナグロ				●					●			
20 ダイゼン								●●●	●	●●●		
21 ケリ			●									
22 キョウジョシギ								●●●	●			
23 トウネン				●	●			●●	●●●	●●		
24 ヒバリシギ									●			
25 ウズラシギ									●			
26 ハマシギ				●	●			●	●●●	●●●		
27 オバシギ								●	●●			
28 ミユビシギ								●	●			
29 ヘラシギ									●			
30 エリマキシギ								●	●			
31 キリアイ									●			

佐藤武視

種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	中	中	中	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	中	中
32 ツルシギ				●								
33 タカブシギ									●			
34 キアシシギ					●●●	●	●	●●●●	●●●●			
35 イソシギ						●	●	●●●	●●●			
36 ソリハシシギ								●●	●			
37 オグロシギ				●						●		
38 オオソリハシシギ					●				●●●			
39 ホウロクシギ								●	●			
40 チュウシャクシギ				●●●	●●				●●			
41 タシギ				●●●								
42 セイタカシギ				●								
43 アカエリヒレアシシギ					●●●							
44 ユリカモメ		●	●	●							●	
45 セグロカモメ		●●									●●	
46 オオセグロカモメ	●	●	●								●●	●
47 カモメ											●	●
48 ウミネコ	●	●	●	●	●	●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	●●	●
49 アジサシ				●					●			
50 コアジサシ				●	●	●●	●					
51 キジバト							●	●●●	●●●●		●	●
52 アオバト								●●●	●●			
53 カッコウ						●●●●	●●		●			
54 フクロウ								●				
55 ヨタカ								●				
56 ハリオアマツバメ					●							
57 アカゲラ			●						●	●		
58 ヒバリ				●	●●	●●●●	●●	●●	●●	●		
59 ショウドウトツバメ							●●	●	●			
60 ツバメ				●	●	●●●●	●●	●●	●●●			
61 キセキレイ									●			
62 ハクセキレイ				●	●●		●	●●	●●	●●	●	
63 セグロセキレイ						●						
64 ヒヨドリ										●	●	
65 モズ										●●	●	●
66 ジョウビタキ				●								
67 ノビタキ									●			
68 イソヒヨドリ							●				●	
69 クロツグミ							●●●●					
70 ツグミ		●	●	●							●	●
71 オオセッカ								●				
72 コヨシキリ						●●	●●●●	●				
73 オオヨシキリ					●	●●●●	●●●●	●	●			
74 シジュウカラ			●			●				●	●	
75 ホオジロ				●	●●●	●	●●●	●●●	●●	●	●	
76 カシラダカ												●
77 アオジ									●●			
78 カワラヒワ			●	●	●	●●	●●●	●●		●●		

天王海岸の鳥類相について

種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	中	中	中	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	中	中
79 スズメ			●	●●	●	●●	●	●●	●	●●●	●	
80 ムクドリ				●●								
81 ハシボソガラス				●	●	●	●	●●●	●●●	●●		●
82 ハシブトガラス		●	●	●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●●●	●	●
※ ドバト				●				●	●			
月別観察種類数	(5)	(11)	(15)	31	23	22	20	33	46	23	(14)	(11)

まとめ

- (1) 本調査では29科82種が記録された。そのうち繁殖を確認したものは7種で留鳥のカルガモ・キジ・シジュウカラ・カワラヒワ・漂鳥のヒバリ・夏鳥のコヨシキリ・オオヨシキリであった。
- (2) シギ類18種・チドリ類4種の計22種を観察した。県開発局の報告書によれば9月に6回の調査でシギ・チドリ類13種であった。
- (3) シノリガモの9月観察は冬鳥の到来としては早過ぎるので、県内で繁殖している可能性がある。
- (4) 特殊鳥類のオオセッカの確認により、今後、当地域の精査が必要である。
- (5) 海岸線を渡りのコースにしている旅鳥のシギ・チドリ類や砂防林の林縁を通過する旅鳥のノビタキ・冬鳥のジョウビタキなどヒタキ科鳥類にとっても当海岸は重要な中継地とみられる。

謝辞

本稿を草するにあたり、貴重な情報を提供していただいた日本野鳥の会々員の西出隆氏、佐藤公生氏、佐藤正生氏、石川寿一氏、和佐和男氏に御礼申し上げます。

文献

日本鳥学会 (1974) 日本鳥類目録 (改訂第5版) 学研
 秋田県公害課・昭和49年 秋田湾地区生物調査報告書 (II 鳥類の部)
 秋田県開発局・昭和53年 秋田湾地区自然環境調査報告書
 秋田県野鳥の会・1978 会誌第9号 秋田の野鳥
 西出隆・1977 秋田の野鳥 無明舎

図版の説明

- (1) シノリガモ *Histrionicus histrionicus* (IX・7) (2) キョウジョシギ *Arenaria interpres* (VIII・30)
 (3) ヒバリシギ *Calidris minutilla* (IX・16) (4) ハマシギ *Calidris alpina* (X・26) (5) オバシギ *Calidris tenuirostris* (VIII・22) (6) エリマキシギ *Philomachus pugnax* (VIII・22) (7) チュウシャクシギ *Numenius phaeopus* (IV・30) (8) セイタカシギ *Himantopus himantopus* (VI・13)

図版

